

天皇杯・皇后杯の『大会価値の向上』

真の日本一決定戦として、「予選大会から本大会までの一本化」を図り、以下の課題を解消

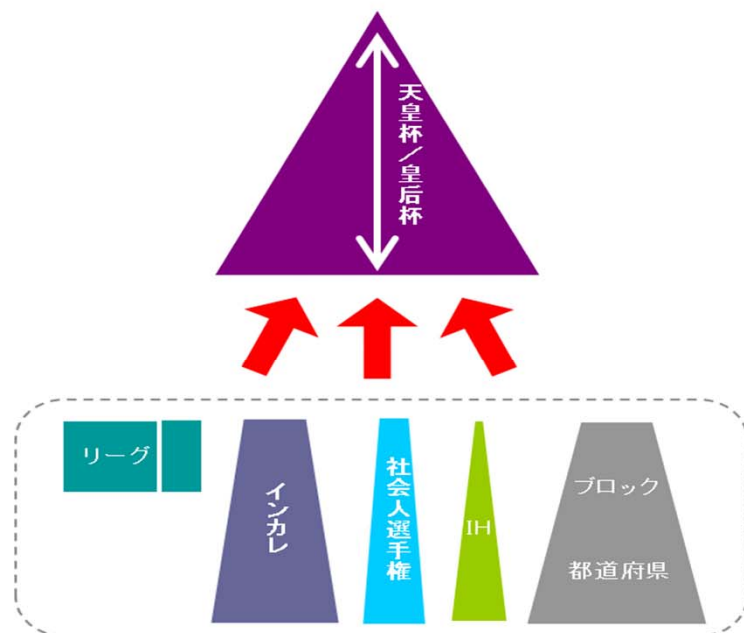
- 連盟特別枠と地域（ブロック協会）推薦枠での出場対象チームの重複

⇒ 出場機会の不均等

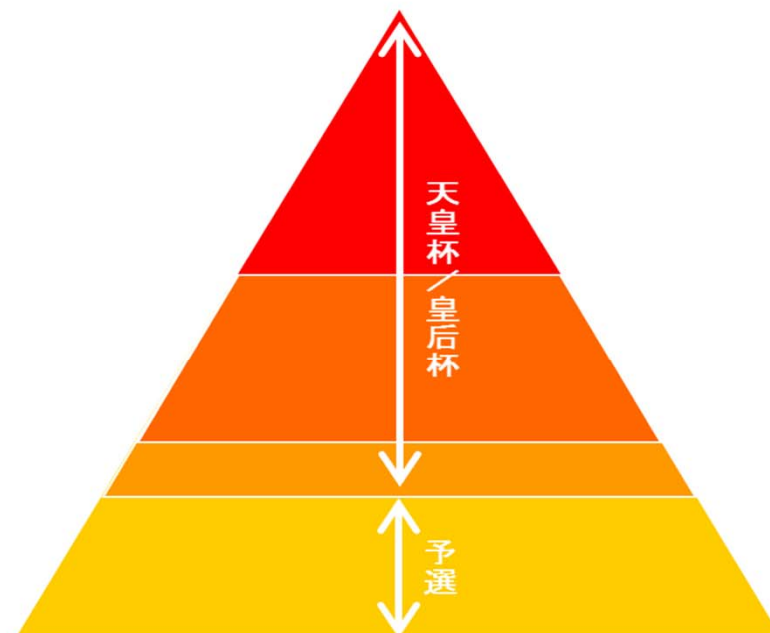
- 各連盟に委任された出場チーム選出方法/推薦基準

⇒ 大会意義（「全てのチームに等しく日本一になるチャンスのある唯一の大会」「真の日本一決定大会」）の希薄化

新旧の出場チーム決定方法比較（下図）



地域（47都道府県）、連盟大会の入り混じった予選



地域（47都道府県）予選からの一本化（出場権は1回）

新天皇杯・皇后杯のポイント① 『出場チーム』

1. 公益財団法人日本バスケットボール協会登録の高校生以上の全チームに出場資格
2. トップリーグの全チームが出場（BリーグおよびB3リーグ全チーム、WJBL全チーム）

→全日本総合バスケットボール選手権から全日本バスケットボール選手権へ

《天皇杯/男子》

4次ラウンド～：8チーム

3次ラウンドに勝利した8チーム

3次ラウンド：31チーム

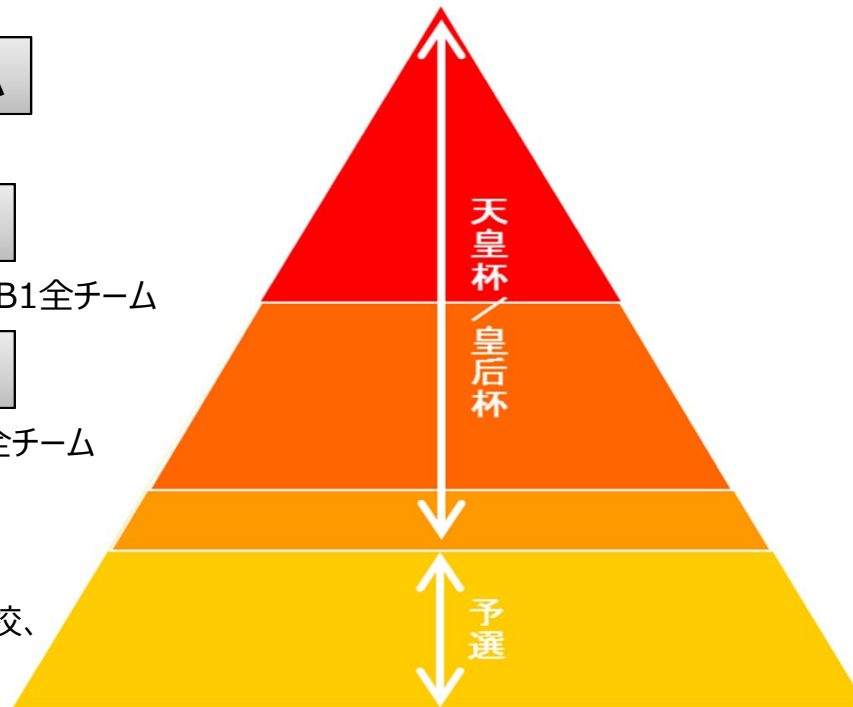
2次ラウンドに勝利した13チーム+B1全チーム

2次ラウンド：65チーム

各都道府県代表47チーム+B2全チーム

1次ラウンド

各都道府県協会に所属するB3、
実業団、クラブ、教員、大学、高校、
高専、専門学校、他



《皇后杯/女子》

4次ラウンド～：8チーム

3次ラウンドに勝利した8チーム

3次ラウンド：27チーム

2次ラウンドに勝利した15チーム+WJBL全チーム

2次ラウンド：47チーム

各都道府県代表47チーム

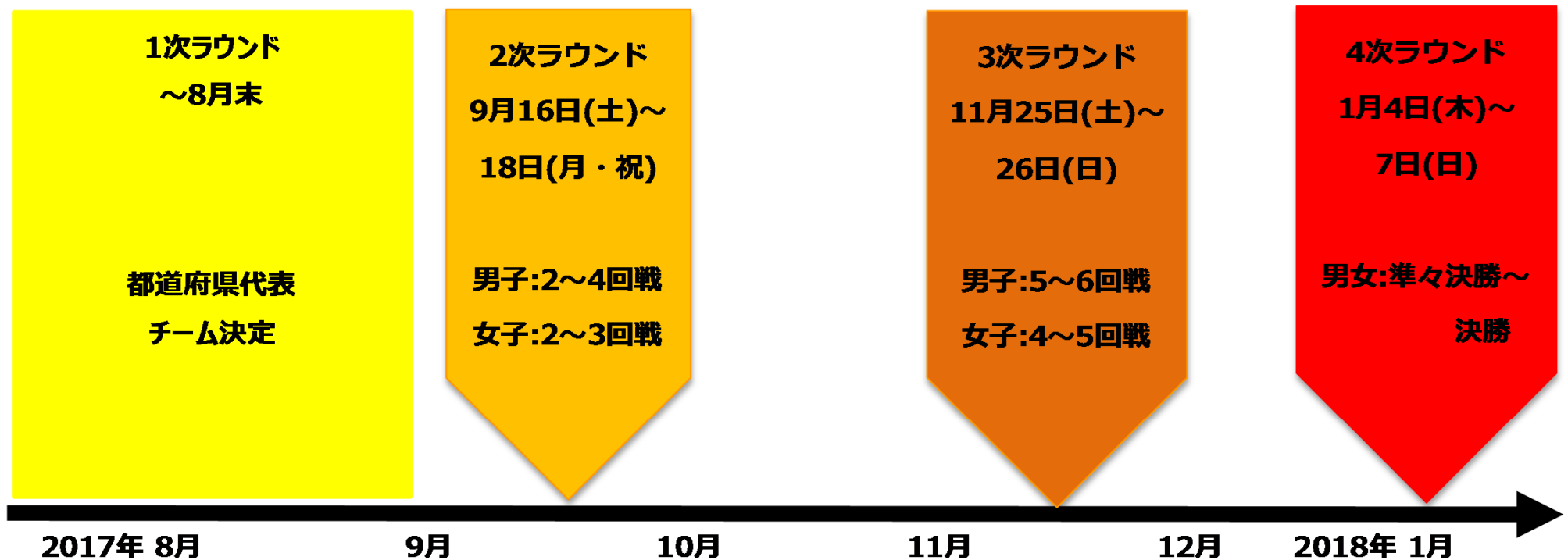
1次ラウンド

各都道府県協会に所属する
実業団、クラブ、教員、大学、高校
高専、家庭婦人、専門学校、他

新天皇杯・皇后杯のポイント② 『大会開催期間』

1. 8月末の都道府県代表決定から、1月第1週まで延べ6か月間にわたる

国内最大のバスケットボールトーナメント



新天皇杯・皇后杯のポイント③ 『大会会場』

男女準決勝（4次ラウンド）からは、国内最大級の多目的アリーナ

「さいたまスーパーアリーナ」にて開催。

3次ラウンドは、全国8か所の会場

- 岩手県 : 盛岡タカヤアリーナ（盛岡市）
- 栃木県 : 栃木県立県北体育館（大田原市）
- 神奈川県 : トッケイセキュリティ平塚総合体育館（平塚市）
- 新潟県 : 新潟市東総合スポーツセンター（新潟市）
- 京都府 : 島津アリーナ京都（京都市）
- 大阪府 : 堺市金岡公園体育館（堺市）
- 愛媛県 : 今治市営中央体育館（今治市）
- 熊本県 : 熊本県立総合体育館（熊本市）

2次ラウンドは、東日本/中日本/西日本エリアに分けて集中開催

- 東日本エリア : 湿原の風アリーナ釧路（北海道釧路市）
- 中日本エリア : 黒部市総合体育センター（富山県黒部市）
- 西日本エリア : ダイハツ九州アリーナ（大分県中津市）

※各開催年度ごとに、開催地および開催会場を決定。次年度以降も2次ラウンド3会場、3次ラウンド8会場で開催。